

春秋

師走の「師」は、お坊さんのことだと習った記憶がある。学校の先生を指すという説もある。普段どっしり構える偉い人たちが、あまりに忙しくて、ちよこちよこ走り出す。その姿を想像すると漫画のようで面白い。そのせいか陰暦の月で最初に覚えた名は師走だった。

▼師と呼ばれるのは、知識や経験を積み、人々に語りかけ、導くような職業だろう。医師、教師、牧師、占師、漫才師……。医療や宗教、芸能などの分野に多いようだ。いまは看護師が正式な名称で看護師とは書かない。わずかな語感の違いだが、同じ発音でも「士」よりも「師」の方が、どこか高級で格が上の印象になる。

▼「士」は専門的な技能を持ち、誰かの代わりに働く仕事が多いらしい。弁護士は被告や原告の代理人として裁判に臨む。税理士は納税者に代わって税金を計算する。保育士は親の代役で子供の面倒をみる。とはいえ漢字1文字の違いで中身が決まるわけではない。大事なものは名前ではなく、その人が仕事に臨む姿勢だろう。

▼タクシーの運転手や運転士ではなく、運転師と呼びたくなる人もいる。街中のあらゆる道に精通し、刻々と変わる流れを読み、無駄口をたかす、滑らかに客を目的地に運ぶ。思わず尊敬の念を抱き、真摯な姿勢に学びたくなる本物のプロは、どんな仕事の世界にもいるものだ。ことしは何人の「師」に出会えただろうか。